

分野(領域)の設定と修業期間について

(修業期間)

- 医療現場の各活動領域において実施される特定行為の範囲を踏まえ、
 - ・特定の分野(領域)に限定した特定行為を実施するための修業期間は8ヶ月以上
 - ・特定の分野(領域)を限定せず、幅広い特定行為を実施するための修業期間は2年以上と設定してはどうか。

※必要とする教育内容・単位数等は最小限のものを「教育内容等の基準」として規定する。各教育・研修機関では、「教育内容等の基準」を含めた独自のカリキュラムを策定する。

(分野(領域))

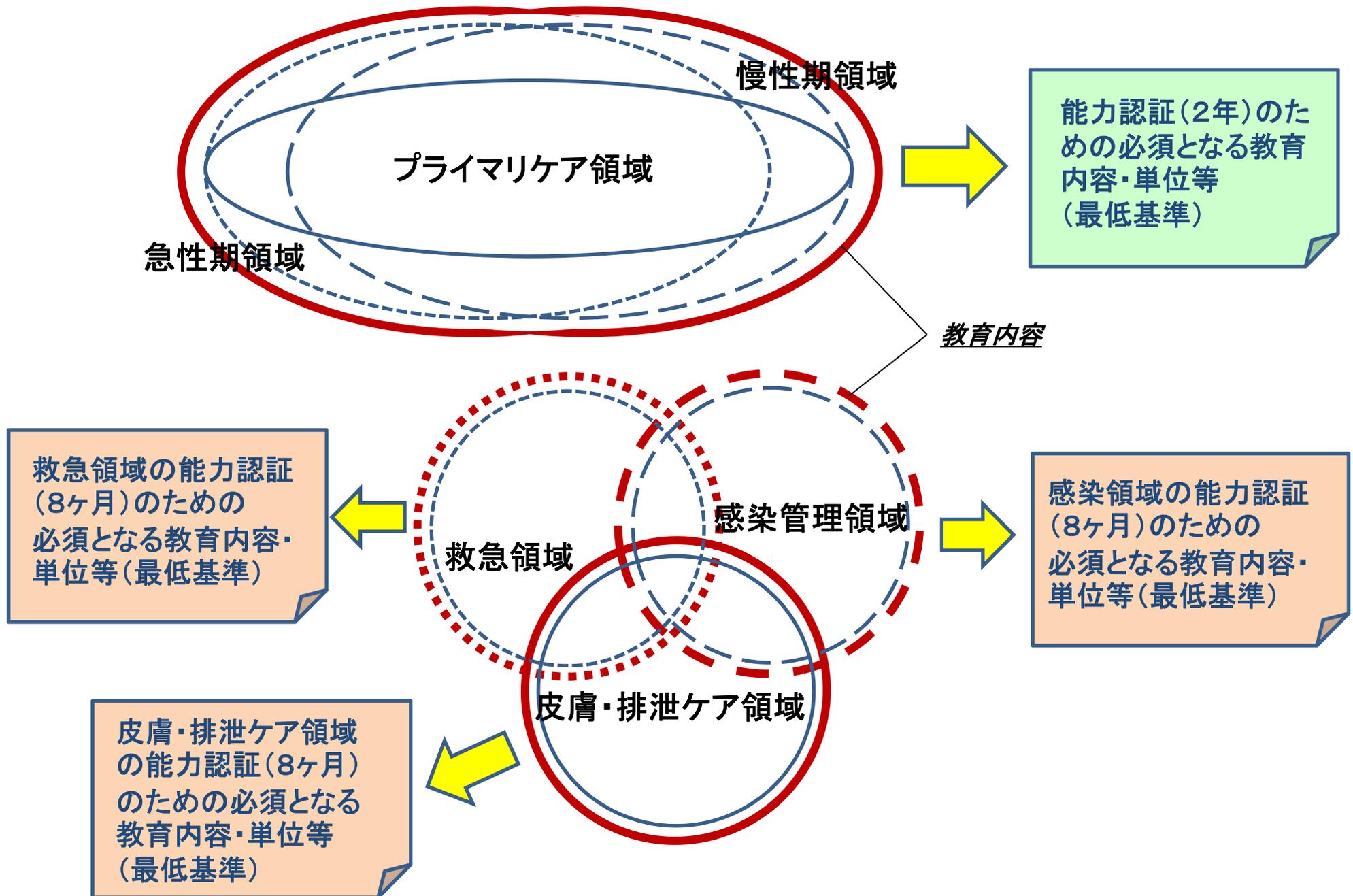
- 特定の分野(領域)に限定した修業期間8ヶ月以上の課程については、養成調査試行事業を踏まえ、「救急」「皮膚・排泄ケア」「感染管理」の分野(領域)を設定してはどうか。

※今後、必要に応じて分野(領域)を追加する。

(教育内容)

- 「看護師の業務における行為の類型に関する整理」(資料1-1 別紙4)を踏まえ、医行為ではないが医行為に付随する行為や治療内容に関わる専門的教育が必要な行為についても、教育内容・単位数等に反映させることとしてはどうか。

特定行為の範囲とそれに対応した教育内容等の設定(イメージ)



2年相当の教育内容等と修了者の活動イメージ

大学院修士課程

※各大学院の自由裁量によりカリキュラムを策定

能力認証のための必須となる教育内容・単位等
【教育内容等の基準】

幅広い特定行為(B1,B2)の実施に必要な知識・技術等

3P科目(フィジカルアセスメント/病態生理学/臨床薬理学)及び十分な指導体制の下での実習等を含む教育内容

医行為ではないが専門的教育が必要な行為(E)の実施に必要な知識・技術等

各大学院の自由裁量で追加可能

各大学院が独自に強化する教育内容

(例)

- ・慢性期
- ・プライマリケア
- ・急性期 等

課程修了 ↓ 能力認証(2年間)

修了者の
主な活動イメージ

多様な分野で幅広い特定行為を含めた実践を行う。

※各大学院が独自に強化した分野の患者を中心としつつ、患者の状態変化等に応じて対象を拡大して活動

8ヶ月相当の教育内容等と修了者の活動イメージ

研修課程

各領域における特定行為(B1,B2)の実施に必要な知識・技術等

3P科目(フィジカルアセスメント/病態生理学/臨床薬理学)及び十分な指導体制の下での実習等を含む教育内容

医行為ではないが専門的教育が必要な行為(E)の実施に必要な知識・技術等

各研修課程の自由裁量で追加可能

救急看護認定看護師養成のための教育内容等

皮膚・排泄ケア認定看護師養成のための教育内容等

感染管理認定看護師養成のための教育内容等

課程修了

能力認証
8ヶ月間
救急領域

課程修了

能力認証
8ヶ月間
・排泄ケア領域
皮膚

課程修了

能力認証
8ヶ月間
感染管理領域

大学院修士課程

※各大学院の自由裁量によりカリキュラムを策定

各領域における特定行為(B1,B2)の実施に必要な知識・技術等

3P科目(フィジカルアセスメント/病態生理学/臨床薬理学)及び十分な指導体制の下での実習等を含む教育内容

医行為ではないが専門的教育が必要な行為(E)の実施に必要な知識・技術等

各大学院の自由裁量で追加可能

専門看護師養成のための教育内容等

課程修了

能力認証
8ヶ月間
〇〇領域

能力認証(8ヶ月)のための
必須となる教育内容・単位等
【教育内容等の基準】

(修了者の主な活動イメージ)
各領域の患者に対して、特定行為を含めた実践を行う。

到達目標・到達度、評価について

(到達目標・到達度)

- 養成課程修了時に特定行為を全て自律して実施できることを到達目標とするのではなく、養成課程では特定行為の実施に必要な基礎的事項を学び、特定行為の実施に必要な基礎的な知識の理解や思考過程及び基礎的な実践能力の習得を目標としてはどうか。

(評価)

- 養成課程における到達度の評価について、実施時期や実施方法など、養成課程で統一的に実施する仕組みが必要ではないか。

(養成課程修了後の研鑽)

- 養成課程修了後、特定行為を含む業務を行うのに必要な知識及び技能に関する研修についてどのように考えるか。

講義や実習における教員・指導者の要件

- 講義や実習を担当・指導する教員の要件について、どのように考えるか。
- 養成調査試行事業の実績を踏まえ、「基礎となる知識」や「技術・能力」等の講義や実習における教員・指導者には、医師や薬剤師など、教育内容に応じた要件を求めることとしてはどうか。
- 特に、特定行為の習得を目指した臨床実習における担当教員・指導者は、医師を中心とすることを規定してはどうか。

能力認証を受けるために必要な教育内容・単位等(2年)イメージ

	到達目標	教育内容	単位数	
基盤理論等となる	<ul style="list-style-type: none"> ○ 患者の社会的背景や心理的状況を把握・評価するために必要な知識及び応用方法を理解する。 ○ 疾病管理に必要な知識及び応用方法を理解する。 ○ 高い臨床実践に伴って生じ得る倫理的諸問題の対処方法を理解する。 	看護実践論、病態理論及び看護・医療倫理を含む内容	(◇)○単位 (時間)	●単位 (■時間) 以上
基礎知識となる	<ul style="list-style-type: none"> ○ 高い臨床実践において、患者の訴える症状や身体所見等から正確な症状の評価や臨床推論を実践し、正確かつ適切に一次的鑑別診断を行うための知識を習得する。 ○ 診断に基づく薬物療法の基本を理解し、高い臨床実践において個々の患者の状態に合わせて包括的指示を受けて、薬剤を適切に使用するための知識を習得する。 	解剖生理学、病態生理学、診察・診断・治療学、栄養学及び臨床薬理学を含む内容	(◇)○単位 (時間)	
能力・技術	<ul style="list-style-type: none"> ○ 患者の身体的状態を正確に把握・評価できる。 ○ 臨床推論を行い、包括的指示を受けて疾病の検査・治療を適切に行い、また、薬物療法を安全かつ効果的に実施できる。 ○ 患者の急激な病態変化に対して適切に対応できる。 	フィジカルアセスメント及び診察・診断・治療技術論を含む内容	(◇)○単位 (時間)	
総合的知識・統合力	<ul style="list-style-type: none"> ○ 疾病管理を行う上で、多職種によるチーム医療の中で十分に能力を発揮できる。 ○ 高い臨床実践に必要とされる医療安全について理解し、率先して実践できる。 	医療管理学、保健医療福祉システム論及び医療安全学を含む内容	(◇)○単位 (時間)	
臨床実習	<ul style="list-style-type: none"> ○ 疾病の治療と療養生活の質の向上の双方の視点を持ち、疾病管理を実践できるよう、高い臨床実践能力に統合する。 	臨床実習	(◇)○単位 (時間)	

能力認証を受けるために必要な教育内容・単位等(8ヶ月:救急領域)イメージ

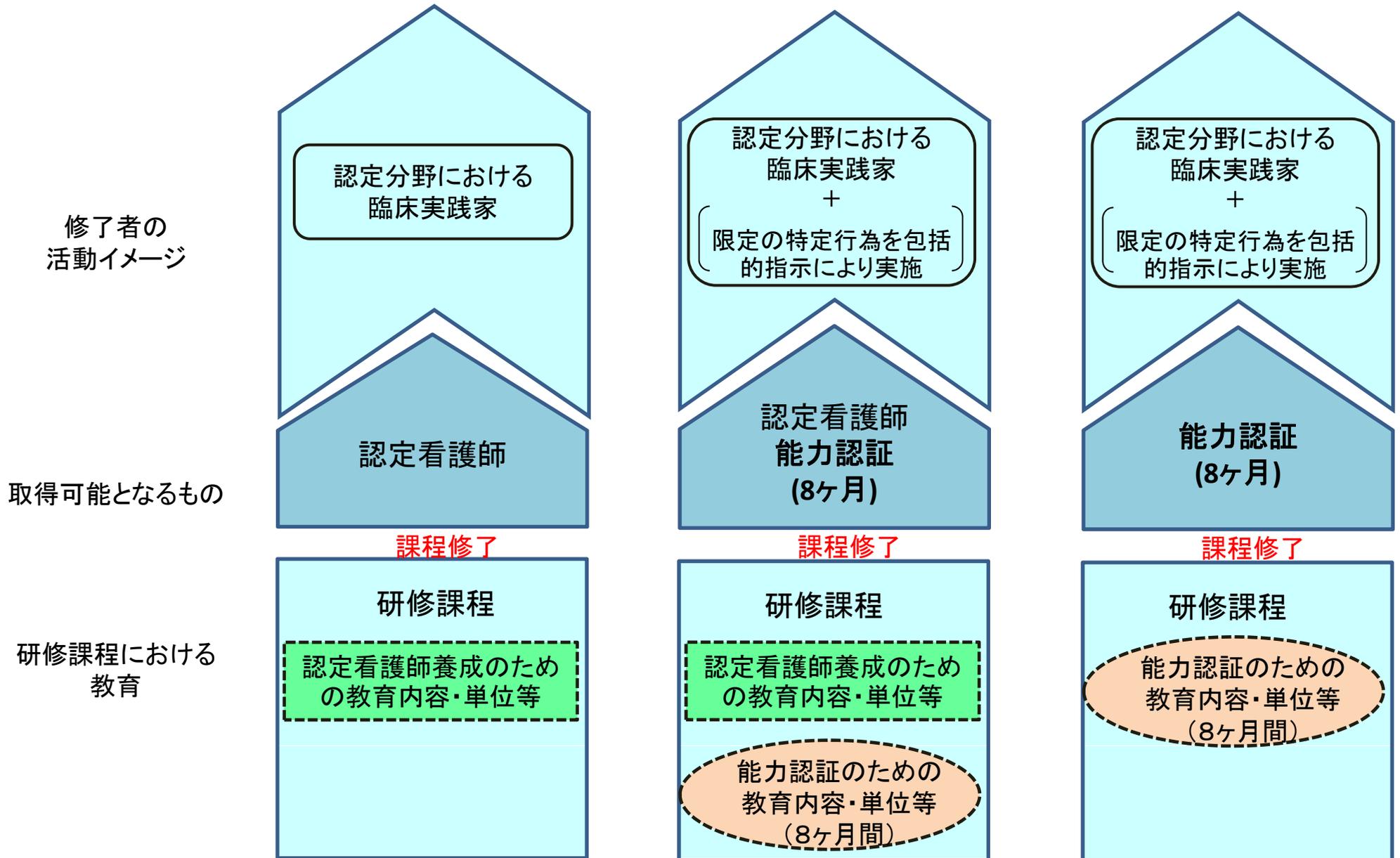
	到達目標	教育内容	単位数	
基盤論と等なる	<ul style="list-style-type: none"> ○ 救急患者の社会的背景や心理的状況を把握・評価するために必要な知識及び応用方法を理解できる。 ○ 救急患者の病態管理に必要な知識及び応用方法を理解するとともに、救急現場に特有な倫理的問題や高い臨床実践に伴って生じ得る倫理的諸問題の対処方法を理解できる。 	救急看護実践論、急性期病態理論、看護倫理・医療倫理を含む内容	(◇)○単位 (時間)	●単位 (■時間) 以上
基礎知識となる	<ul style="list-style-type: none"> ○ 救急領域での高い臨床実践において、患者の訴える症状や身体所見等から正確な症状の評価や臨床推論を実践し、正確かつ適切に一次的鑑別診断を行うための知識を習得する。 ○ 診断に基づく薬物療法の基本を理解し、救急領域での高い臨床実践において個々の患者の状態に合わせて、医師の包括的指示の下、薬剤を適切に使用するための知識を習得する。 	解剖生理学、病態生理学、診察・診断・治療学(救急)、栄養学、救急臨床薬理学を含む内容	(◇)○単位 (時間)	
能力・技術	<ul style="list-style-type: none"> ○ 救急患者の身体的状態を正確に把握・評価できる。 ○ 救急領域における臨床推論を行い、包括的指示を受けて疾病の検査・治療を適切に行い、また、薬物療法を安全かつ効果的に実施できる。 ○ 救急領域における患者の急激な病態変化に対して適切に対応できる。 	フィジカルアセスメント(救急)、診察・診断・治療技術論(救急)を含む内容	(◇)○単位 (時間)	
総合的知識	<ul style="list-style-type: none"> ○ 救急領域における疾病管理を行う上で、多職種によるチーム医療の中で十分に能力を発揮できる。 ○ 高い臨床実践に必要とされる医療安全について理解し、率先して実践できる。 	救急医療管理学、保健医療福祉システム論、医療安全学を含む内容	(◇)○単位 (時間)	
臨床実習	<ul style="list-style-type: none"> ○ 救急領域における迅速な治療の開始とその後の療養生活の質の向上についての双方の視点を持ち、疾病管理を実践できるよう、高い臨床実践能力に統合する。 	救急領域における臨床実習	(◇)○単位 (時間)	

(参考1) 養成課程と修了者のキャリアパス(イメージ)
 ~大学院修士課程において養成する場合~



※大学院修士課程では、多様な認定・認証等の基準教育課程を盛り込みカリキュラムを策定している

(参考2) 養成課程と修了者のキャリアパス(イメージ)
 ~研修課程等において養成する場合~



カリキュラムについて

<論点(案)>

1. カリキュラム修了時にどの程度の水準の能力の獲得を目標とするのか。
例) 医師の指示を受けて特定行為をすぐに自律して実施することが可能
医師の指示及び指導を受けて特定行為を実施することが可能
2. 必要な能力を獲得するために必須とすべき科目や実習はどうあるべきか。
3. 講義や実習における指導者(教員)の要件についてどう考えるか。
4. カリキュラムに必要な単位数(時間数)、修業期間、分野についてどう考えるか。
5. 既存の高度・専門的な看護師を養成する課程との関係についてどう考えるか。

